

**令和3(2021)年度
とちぎっ子学習状況調査
結果分析**



下野市教育研究所

令和3年9月

「令和3(2021)年度とちぎっ子学習状況調査」結果分析

令和3年9月
下野市教育委員会

調査について

1 調査の概要（「とちぎっ子学習状況調査」実施要項より一部抜粋）

(1) 調査の目的

本調査の実施により本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

(2) 調査実施日

令和3(2021)年5月27日(木)

(3) 調査対象

小学校第4学年、小学校第5学年、中学校第2学年

(4) 調査事項及び手法

① 教科に関する調査

- ・小学校調査：国語、算数、理科
- ・中学校調査：国語、社会、数学、理科、英語

② 児童生徒質問紙調査

- ・内容：学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等
- ・方法：選択回答式
- ・質問数：小学校94問、中学校113問

③ 学校に対する調査

学校における指導に関する取組や学習環境等

(5) その他

本調査の結果は、学力の特定の一部であること、学校における活動の一側面であることに留意し、児童生徒の全般的な学習状況への指導・改善等につなげるよう留意する。

2 本市の参加状況 ※参加人数は最も多かった教科のもの

調査対象内訳	下野市	
小学校第4学年	小学校11校	508人
小学校第5学年	小学校11校	503人
中学校第2学年	中学校4校	473人

本市の結果について

1 概要

(1) 教科に関する調査の結果

【「令和3(2021)年度とちぎっ子学習状況調査」平均正答率の下野市と栃木県の比較】

- ◎ 大きく上回っている（5ポイント以上）
- 上回っている（1ポイント以上 5ポイント未満）
- － 同程度（±1ポイント未満）

《小学校》

第 4 学 年			第 5 学 年		
	内 容	県との比較		内 容	県との比較
国 語	全 体	○	国 語	全 体	○
	基 礎	○		基 礎	○
	活 用	◎		活 用	◎
算 数	全 体	○	算 数	全 体	○
	基 礎	○		基 礎	○
	活 用	◎		活 用	○
理 科	全 体	○	理 科	全 体	○
	基 礎	○		基 礎	○
	活 用	◎		活 用	○

《中学校》

第 2 学 年					
	内 容	県との比較		内 容	県との比較
国 語	全 体	○	社 会	全 体	○
	基 礎	○		基 礎	○
	活 用	○		活 用	○
算 数	全 体	○	理 科	全 体	◎
	基 礎	○		基 礎	○
	活 用	○		活 用	◎
英 語	全 体	◎			
	基 礎	◎			
	活 用	◎			

全教科、全種別において、市の平均正答率が県の平均正答率を上回る結果となった。
 小学校第4学年においては、いずれの教科も活用の問題において県平均正答率を大きく上回った。第5学年においては、国語の活用の問題で県平均正答率を大きく上回った。中学校第2学年においては、理科の全体と活用で、英語の全ての種別で県平均正答率を大きく上回る結果となった。

各教科の結果について



1 国語

(1) 小学校第4学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 ー 同程度 (±1ポイント未満)
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基 礎	活 用
県との比較	○	○	◎

② 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項基礎	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
県との比較	○	◎	◎	◎	◎	○

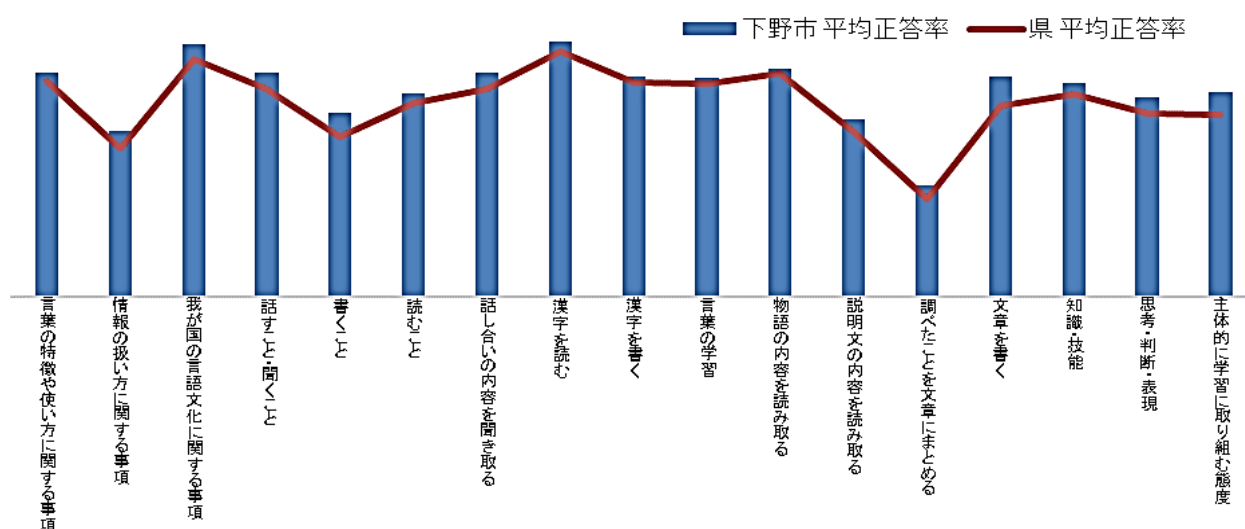
③ 内容別正答率

	話し合いの内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語の内容を読み取る	説明文の内容を読み取る	調べたことを文章にまとめる	文章を書く
県との比較	◎	○	○	○	○	○	○	◎

④ 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県との比較	○	◎	◎

⑤ 県平均正答率との比較



- ・全ての領域、内容、観点において県平均正答率を上回る結果となった。
- ・条件に合わせて文章を書く問題では、県平均正答率を大きく上回った。授業の振り返りなどにおいて、文字数や段落数の条件を提示して文章を書く活動を取り入れた授業改善が進められていることが、成果の要因として考えられる。
- ・主語と述語の正しい組み合わせを選ぶ問題では、主語や述語のいずれかと修飾語を選択した児童が2割程度見られた。主語を省略しても文意が通じることも多く、日常の会話の中でも省略されることが多い。言語事項を扱う小単元の学習だけではなく、普段から主語を意識して文章を読んだり書いたりする活動を取り入れていくなどの工夫が考えられる。

(2) 小学校第5学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基 礎	活 用
県との比較	○	○	◎

② 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項基礎	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
県との比較	○	○	—	○	◎	○

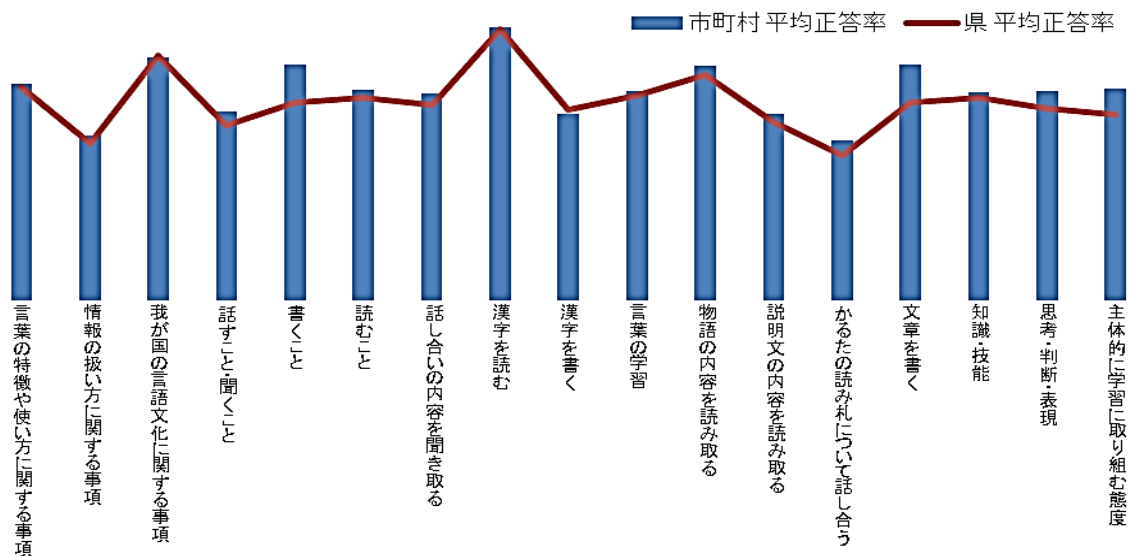
③ 内容別正答率

	話し合いの内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語の内容を読み取る	説明文の内容を読み取る	かるたの読み札について話し合う	文章を書く
県との比較	○	—	▼	○	○	○	◎	◎

④ 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県との比較	○	◎	◎

⑤ 県平均正答率との比較



- ・全ての領域、観点において県平均正答率を同程度か上回る結果となった。
- ・アンケート調査の結果から改善点を考え記述する問題では、県平均正答率を大きく上回った。昨年度の結果と比較し、根拠となる事実を示しながら、自分の考えを明確に記述する力が伸びてきている。
- ・送り仮名のある漢字の読み書きの問題では県平均正答率を下回った。新出漢字の学習では、漢字を練習するだけでなく、文章の中で正しく用いることができるよう指導することが重要である。併せて、漢字のもつ意味や他の読み方にも目を向けるなど、語彙を豊かにする学習の充実が図ることも重要になる。

(3) 中学校第2学年

◎ 大きく上回っている (5ポイント以上)	○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
— 同程度 (±1ポイント未満)	
▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)	▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基礎・基本	思考・判断・表現
県との比較	○	○	○

② 領域別正答率

	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項
県との比較	○	◎	◎	—

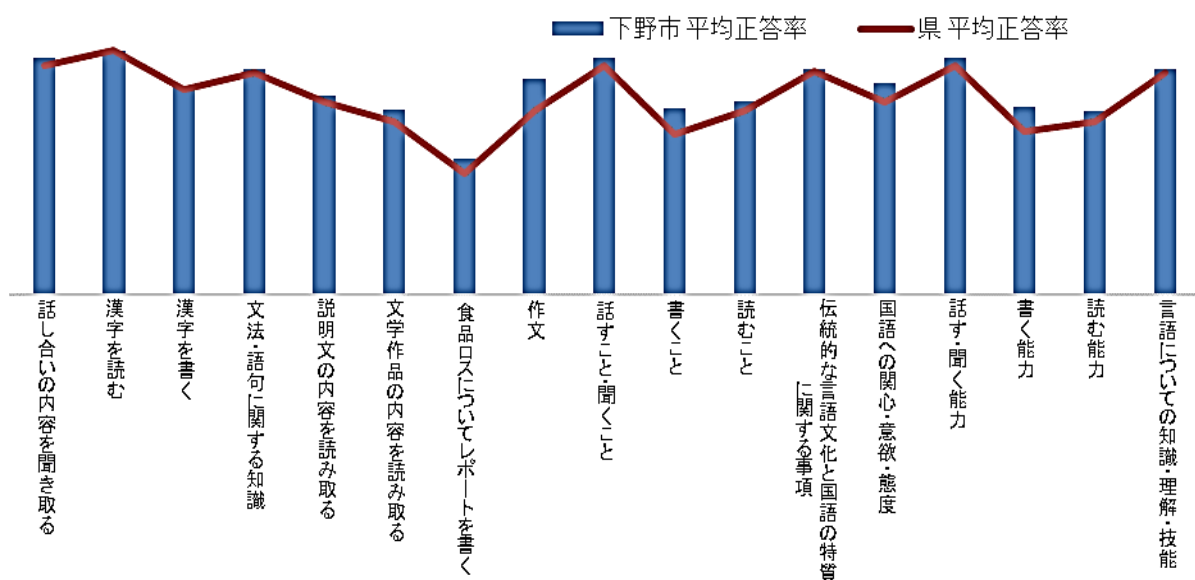
③ 内容別正答率

	話し合いの 内容を聞き 取る	漢字を読む	漢字を書く	文法・語句 に関する 知識	説明文の内 容を読み取 る	文学作品の 内容を読み 取る	食品ロスに ついてレポ ートを書く	作文
県との比較	○	—	○	○	○	○	◎	◎

④ 観点別正答率

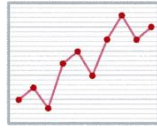
	国語への関心・ 意欲・態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
県との比較	◎	○	◎	○	○

⑤ 県平均正答率との比較



- 全ての領域、内容、観点において県平均正答率と同程度か上回る結果となった。
- 小学校同様「書くこと」領域において県の平均正答率を大きく上回った。資料から自分の考えの裏付けとなる事実を読み取り、根拠を明確にしながら自分の考えを記述する力が定着してきていると考えられる。一方で、記述式の問題では無解答率が2割近く見られることから、個に応じた指導の充実が求められる。
- 漢字を読む問題では、県平均正答率を下回った。過去の調査においても、日常生活の中で用いることが少ない漢字や熟語を扱った問題では正答率が低い傾向が見られた。漢字を書く力の習得のみを目的とせず、類義語や反対語、同音異義語等を扱いながら語彙を豊かにする学習の充実を図っていくことが重要である。

2 算数・数学



(1) 小学校第4学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基 礎	活 用
県との比較	○	○	◎

② 領域別正答率

	数と計算	図形	測定	データの活用
県との比較	○	○	○	◎

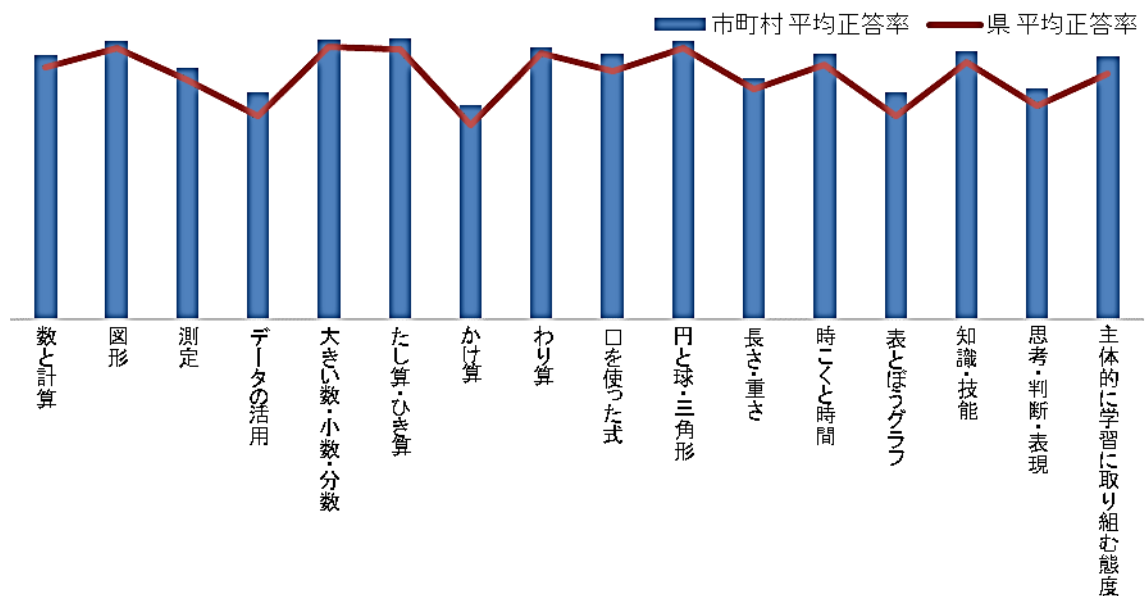
③ 内容別正答率

	大きい数・ 小数・分数	たし算・ ひき算	かけ算	わり算	□を使った 式	円と球・ 三角形	長さ・重さ	時とく 時間	表とぼう グラフ
県との比較	○	○	◎	○	◎	○	○	○	◎

④ 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
県との比較	○	◎	○

⑤ 県平均正答率との比較



- ・全ての領域、内容、観点において県平均正答率を上回る結果となった。
- ・「数と計算」の領域における知識や計算の技能がよく身に付いている。また、どの領域においても、「思考・判断・表現」の観点においてよい結果となっている。授業において、子どもが自力で考えたり、全体で考えを共有したりする時間を大切にしている成果が表れていると考えられる。
- ・「わり算」や「長さ・重さ」の内容においては、思考する問題の正答率が高いにもかかわらず、知識を問われる問題において正答率が県平均正答率を下回った。単元を通して知識を確かなものにできるように、意識しながら授業を進めることが大切だと考えられる。

(2) 小学校第5学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基 礎	活 用
県との比較	○	○	○

② 領域別正答率

	数と計算	図形	測定	データの活用
県との比較	○	—	◎	○

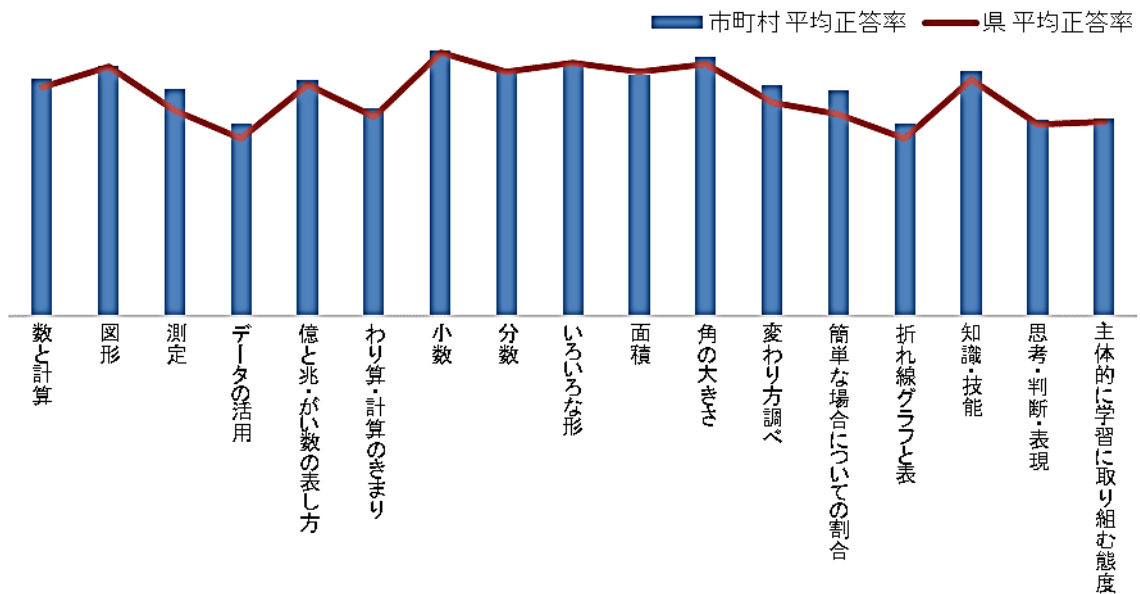
③ 内容別正答率

	億と兆・ がい数の 表し方	わり算・ 計算の きまり	小数	分数	いろい ろな形	面積	角の 大きさ	変わり方 調べ	簡単な 場合につ いての割 合	折れ線 グラフと 表
県との比較	○	○	—	—	—	▼	○	◎	◎	○

④ 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
県との比較	○	○	○

⑤ 県平均正答率との比較



- ・全ての領域、観点において県平均正答率と同程度か上回る結果となった。
- ・「変化と関係」の領域においては、全ての問題において正答率が県平均正答率を大きく上回った。授業において、基準量や比較量との関係などの数量関係を正しく捉えるため、図を用いて考える場を設定している成果が表れていると考えられる。
- ・およその面積を求める問題では、県平均正答率を下回った。図形の学習においては、身近な面積などに対する感覚を養えるよう、実物を用いたり他のものの面積と比較したりするなど、実感を伴った理解を促す学習活動を設定するなどの工夫が求められる。

(3) 中学校第2学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基礎・基本	思考・判断・表現
県との比較	○	○	○

② 領域別正答率

	数と式	図形	関数	資料の活用
県との比較	○	◎	◎	◎

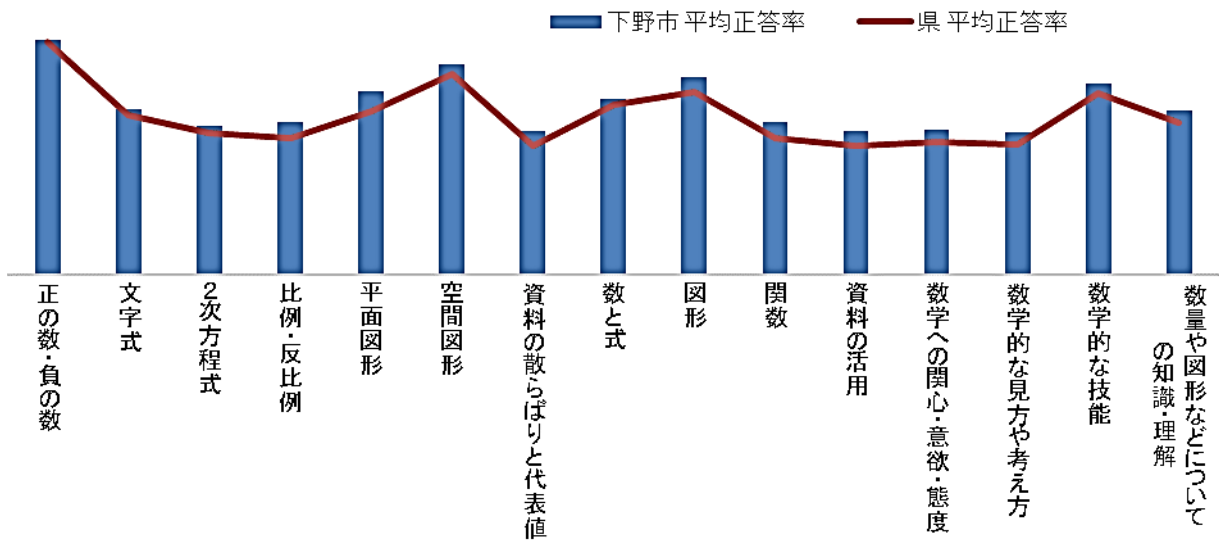
③ 内容別正答率

	正の数・負の数	文字式	2次方程式	比例・反比例	平面図形	空間図形	資料の散らばりと代表値
県との比較	—	○	○	◎	◎	○	◎

④ 観点別正答率

	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
県との比較	○	○	○	○

⑤ 県平均正答率との比較



- 全ての領域、内容、観点において県平均正答率を上回る結果となった。
- 特に、「関数」や「図形」、「資料の活用」の技能や知識についての問題では県平均正答率を大きく上回った。授業において図を使って丁寧に指導を行った結果、場面が変わっても活用できる知識となって身に付いていると考えられる。
- 県平均正答率を下回った問題は、負の数や1次式の減法、1次方程式についての意味の理解についての問題であった。知識を確かなものにするために、数学的用語を用いて説明したりまとめたりする場を設定するなどの工夫をし、知識を概念化することができるようにすることが考えられる。

3 理科



(1) 小学校第4学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基 礎	活 用
県との比較	○	○	◎

② 領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
県との比較	◎	○

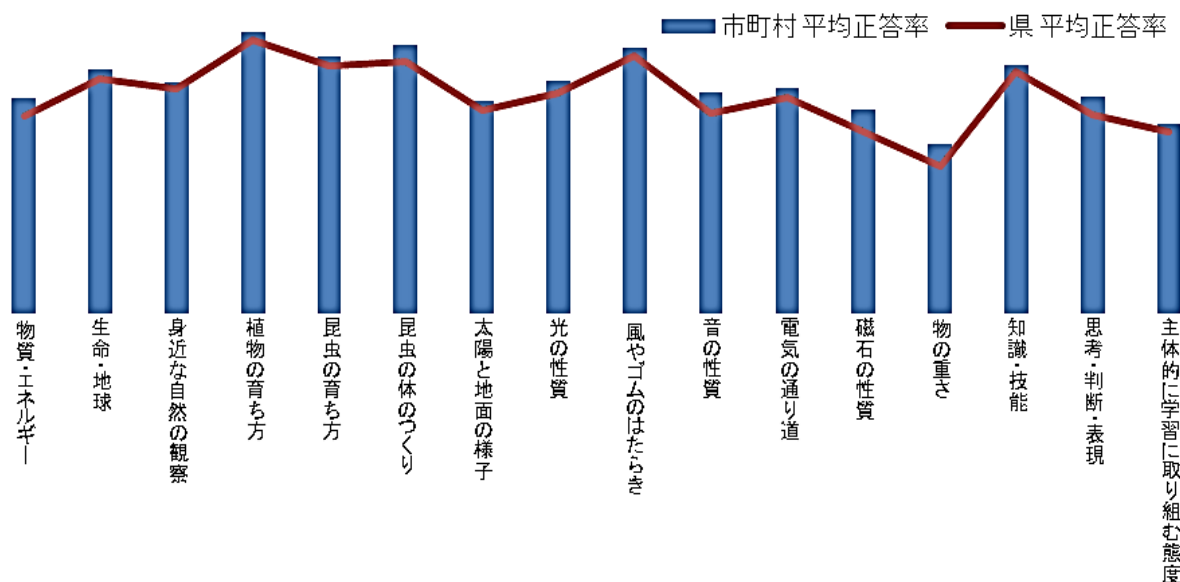
③ 内容別正答率

	身近な自然の観察	植物の育ち方	昆虫の育ち方	昆虫の体のつくり	太陽と地面の様子	光の性質	風やゴムのはたらき	音の性質	電気の通り道	磁石の性質	物の重さ
県との比較	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	◎

④ 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県との比較	○	◎	○

⑤ 県平均正答率との比較



- 全ての領域、内容、観点において県の平均正答率を上回る結果となった。特に、「物質・エネルギー」領域で県の平均正答率を大きく上回った。
- 「電気を通す物と通さない物」や「磁石につく物とつかない物」の区別のできていない児童が多い。児童自身が調べてみたい物を持ち寄り、多くの事象から結論を導き出し、実感を伴った理解とすることが大切である。また、学んだことをやや複雑な課題や日常生活と関係付けて考えることに課題がある児童が多い。授業で取り組む課題を日常のものとしたり、学んだことを活用し表現するところまで授業で扱ったりすることが考えられる。

(2) 小学校第5学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 - 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基 礎	活 用
県との比較	○	○	○

② 領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
県との比較	○	○

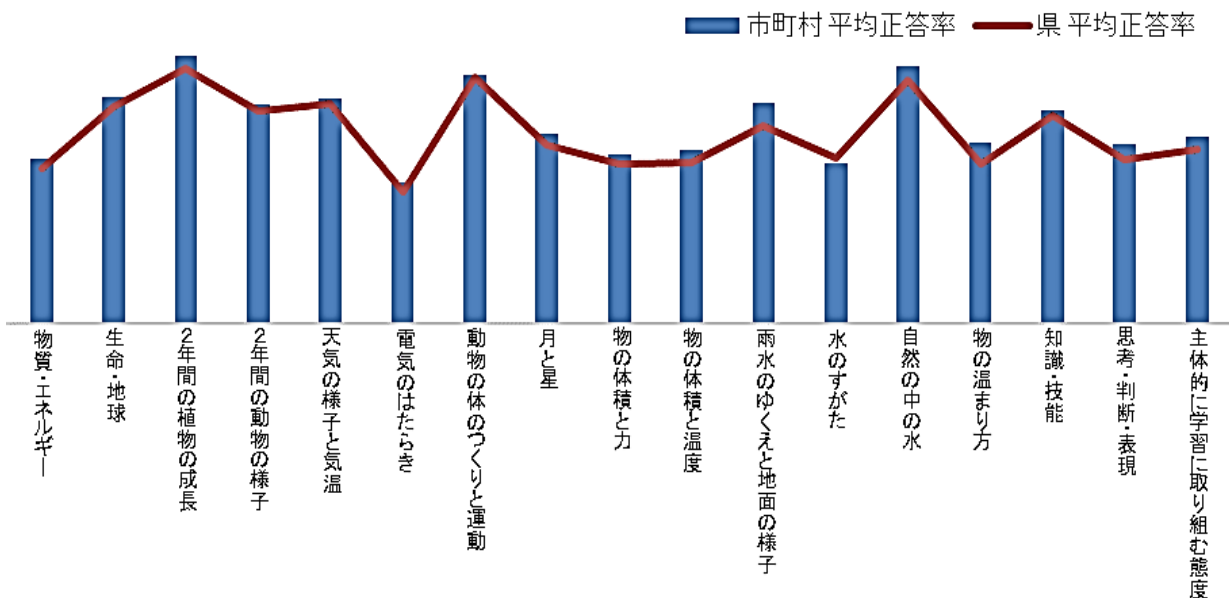
③ 内容別正答率

	2年間の植物の成長	2年間の動物の様子	天気の様子と気温	電気のはたらき	動物の体のつくりと運動	月と星	物の体積と力	物の体積と温度	雨水のゆくえと地面の様子	水のすがた	自然の中の水	物の温まり方
県との比較	○	○	○	○	-	○	○	○	◎	▼	○	◎

④ 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県との比較	○	○	○

⑤ 県平均正答率との比較



- ・ 全ての領域、観点において県の平均正答率を上回る結果となった。特に「雨水のゆくえと地面の様子」「物の温まり方」では、県の平均正答率を大きく上回った。
- ・ 「水のすがた」では、冷やしていく試験管の中の水の温度の変わり方をグラフに表すとどうなるかを問われており、「水が氷になるとき、すなわち液体から固体へと状態変化するときには、温度が一定になることと、水の場合それが0℃であること」の知識が必要となる。授業中の実験を通して現象を理解するとともに、科学的な用語を関係付けながら理解することが重要である。

(3) 中学校第2学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基礎・基本	思考・判断・表現
県との比較	◎	○	◎

② 領域別正答率

	エネルギー	粒 子	生 命	地 球
県との比較	◎	◎	○	○

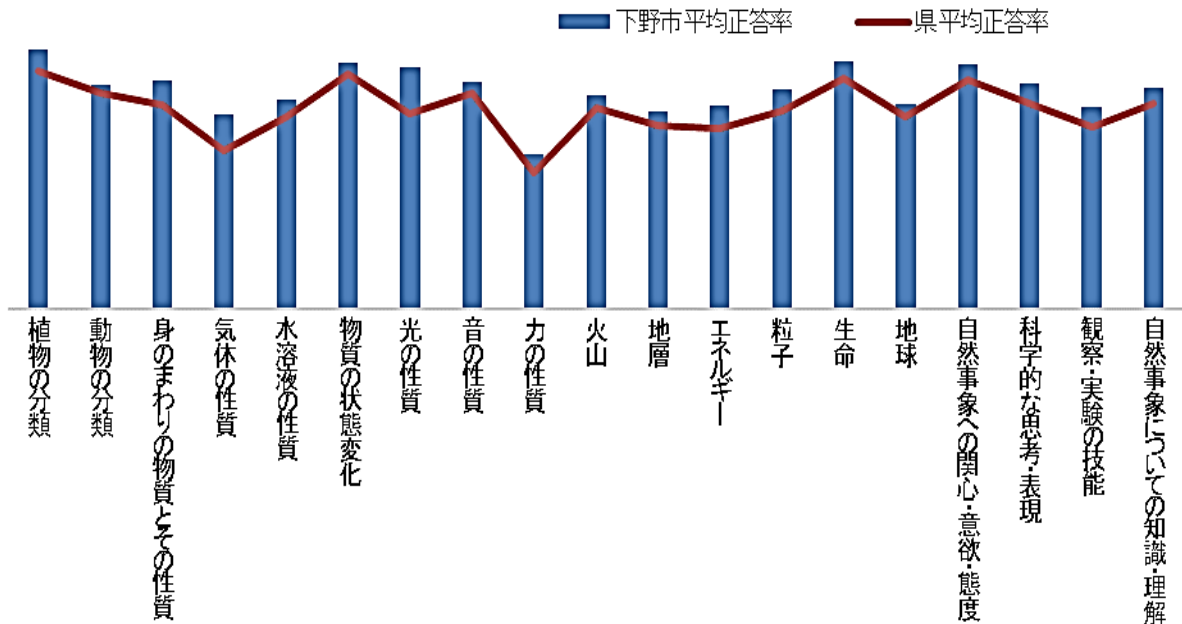
③ 内容別正答率

	植物の分類	動物の分類	身のまわりの物質とその性質	気体の性質	水溶液の性質	物質の状態変化	光の性質	音の性質	力の性質	火山	地層
県との比較	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○

④ 観点別正答率

	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
県との比較	○	◎	◎	○

⑤ 県平均正答率との比較



- 全ての領域、内容、観点において県の平均正答率を上回る結果となった。特に、「エネルギー」「粒子」領域では県の平均正答率を大きく上回った。
- 数値の意味の理解やグラフの活用の仕方に課題のある生徒が見受けられる。例えば、おもりにはたらく重力を測定する際、どのばねばかりを使用するとよいのか考えたり、溶解度曲線のグラフから、再結晶のようすを想像したりすることなどである。実験を問題解決の過程として位置付け、グラフなどを活用しながら、生徒が実際に問題を解決するような授業を行うことが大切である。

4 社会



○中学校第2学年

◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基礎・基本	思考・判断・表現
県との比較	○	○	○

② 領域別正答率

	世界の地域構成	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	古代までの日本	中世の日本	日本の地域構成
県との比較	○	▼	○	○	○	○

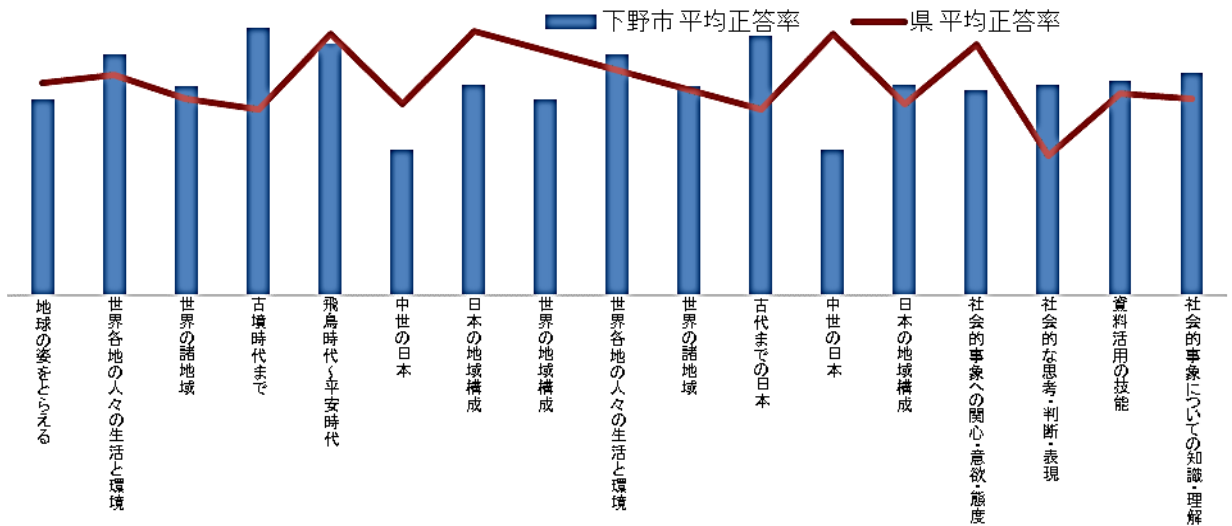
③ 内容別正答率

	地球の姿をとらえる	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	古墳時代まで	飛鳥時代～平安時代	中世の日本	日本の地域構成
県との比較	○	▼	○	—	○	○	○

④ 観点別正答率

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
県との比較	○	○	○	○

⑤ 県平均正答率との比較



- ・ほとんどの領域、内容、観点において県平均正答率と同程度か上回る結果となった。中でも、歴史分野における古代の学習内容の理解にはよい傾向が見られた。
- ・地理分野においては、地図やグラフ等の資料の読み取りや、そこから得られる複数の情報から社会的事象について考える設問に課題が見られた。1つ1つの資料を丁寧に読み取り、情報を整理して考える力の育成が必要である。
- ・歴史分野においては、中世の学習に関する設問に課題が見られた。中でも、過去のとちぎっ子学習状況調査でも正答率が低い傾向が見られた鎌倉幕府と御家人の主従関係を表す「御恩と奉公」については今回も低い正答率だった。単なる用語の理解に留まらず、歴史的事象と関連させた理解につなげるような指導の手立てが必要である。



5 英語

○中学校第2学年

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上 5ポイント未満)
 — 同程度 (±1ポイント未満)
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 教科の正答率

	全 体	基礎・基本	思考・判断・表現
県との比較	◎	◎	◎

② 領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
県との比較	○	◎	◎

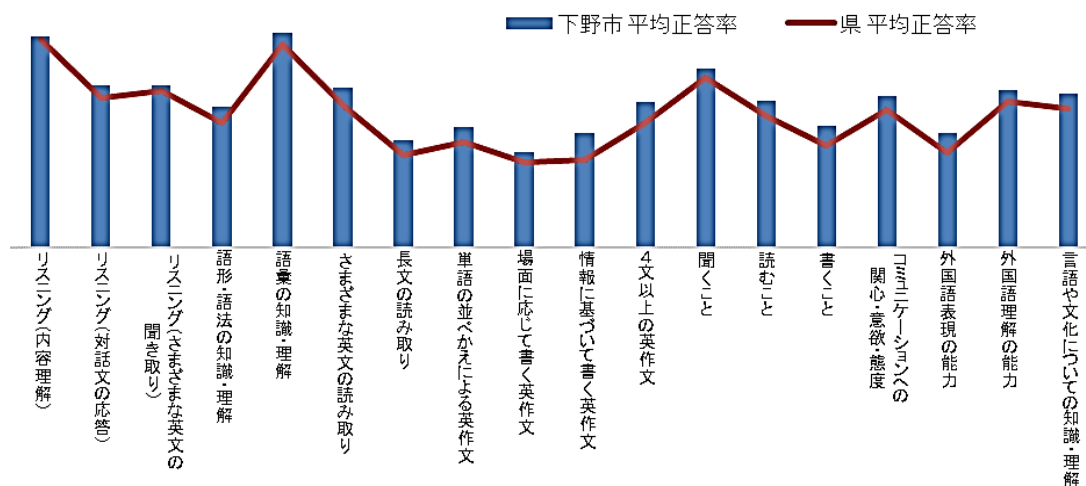
③ 内容別正答率

	リスニング (内容理解)	リスニング (対話文 の応答)	リスニング (さまざま な英文の 聞き取り)	語形・語 法の知 識・理解	語彙の 知識・ 理解	さまざま な英文の 読み取り	長文の 読み取り	単語の 並べかえ による 英作文	場面こ 応じて書 く英作文	情報に基 づいて書 く英作文	4文以上 の英作文
県との比較	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎

④ 観点別正答率

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について の知識・理解
県との比較	◎	◎	◎	◎

⑤ 県平均正答率との比較



- 全ての領域別、内容別、観点別正答率において県平均を上回る結果となった。
- 対話文や英文の情報を正しく読み取る問題 (語彙の知識・理解) や内容理解に関するリスニング問題など、「基礎・基本」をみる問題の正答率は高い傾向が見られる。
- 「思考・判断・表現」をみる問題 (「対話の内容を聞き取り、資料をもとに自分の言葉で答える」「対話の流れに合った英文を書く」等) については、無解答率が2割程度に上っており、前回調査から引き続き同じ傾向が見られた。情報や考えなどを即座にやり取りしたり、相手の発話の内容を踏まえ、関連した質問や意見を述べたりするなど、会話を継続させていく活動を取り入れることも効果的である。
- 「聞くこと」「読むこと」においては、要点や概要を捉えて解答する問題に課題が見られる。聞いたり読んだりした内容を理解するに留まらず、内容を理解したうえで自分の意見や考えたことを表現したり要約する活動などを日々の授業の中に取り入れていく工夫が考えられる。